

富山県経済の特徴

1. 地政・社会的背景

(1) 地理

富山県は、本州日本海側の中央部にあり、3大都市圏からはそれぞれ約300kmとほぼ等距離に位置し、面積は4,247k㎡でわが国総面積の1.1%を占めています。

三方を山に囲まれ、東は北アルプス^{うしろたてやま}後立山連峰の急峻な山岳地帯、西は石動^{いするぎ}山・倶利伽羅峠^{くりから}、南は重畳たる飛騨地方との県境の山陵、峡谷となっています。

こうした急峻な山々から富山平野を縦断して富山湾に注ぐ河川が南北に走っているのが富山県の特徴の一つで、一級河川だけでも5本あります。これらの川は、水力発電の源泉になるとともに、豊富な工業用水・農業用水の供給やミネラル分の供給による富山湾における魚資源の涵養に結びついています。

農業についてみれば、肥沃な耕地と豊富な水に支えられて米作が盛んなのが特徴です（耕地面積に占める水田の割合は95.8%と全国第1位。2013年）。また、富山湾は、「天然の生簀」と称されるほど魚種に富んだ漁場になっています。

自然災害が少ないのも当県の特徴です（自然災害被害額は1,408百万円で全国第39位。2013年）。当県では、江戸末期（1858年）の大地震により甚大な土石流被害が発生するなど、長年に亘り水害が県民を悩ませてきました。これに対し、明治中期以降、県を挙げた砂防工事・治水工事が粘り強く行われました（常願寺川や黒部川の上流域での砂防工事は現在も続いています）。当県の保安林率（77.6%。2012年）は全国第1位となっており、こうした地道な施策が「災害の少ない県」に結びついていると思われま。

▽ 富山県の地理的特徴

| | |
|--------|---|
| 面積 | 4,247 km ² (森林 67.1%、耕地 13.9%) |
| 最も高い山岳 | 立山 (大汝山) 標高 3,015m |
| 最も長い河川 | 神通川 全長 120km (県外部分を含む) |
| 年間降水量 | 2,862.5mm (2013 年度) <全国順位：2 位> |
| 年間日照時間 | 1,785.9 時間 (2013 年度) <全国順位：40 位> |

(出所) 富山県、富山県「100 の指標 統計からみた富山<平成 26 年度版>」

(2) 人口

富山県の総人口は、1998 年度をピーク (113 万人) に減少に転じており、2013 年度には 108 万人となっています。また、先行きも減少を続け、2025 年頃に 100 万人を割り込む (1950 年代以来の水準に低下) 一方で、65 歳以上の人口比率は全国平均を上回るペースで増大すると推計されています。

今後、こうした人口減少や高齢化の進展が、県内の生産や個人消費にどのような影響を与えていくか、中長期的なスパンでみていく必要があります。

▽ 富山県の人口・世帯数等など

| | 総人口 (2013年度) | 人口密度 (2013年度) | 世帯数 (2010年度) | 世帯あたり人員 (2010年度) |
|------|-----------------|----------------------|-----------------|---------------------|
| 富山県 | 108万人 | 253人/km ² | 38万世帯 | 2.79人 |
| 全国順位 | 37位 | 25位 | 40位 | 4位 |
| 全国 | 12,730万人 | 341人/km ² | 5,184万世帯 | 2.42人 |

(出所) 総務省「統計でみる都道府県のすがた 2015」

▽ 富山県の人口と高齢化率の推移

| | (実数) 2010 年 | (推計) 2020 年 | (推計) 2030 年 | (推計) 2040 年 |
|----------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 富山県の人口 | 1,093 千人 | 1,028 | 940 | 841 |
| 65 歳以上人口の 占める割合 | 26.2% | 32.7 | 34.5 | 38.4 |
| (全国) 65 歳以上人口の 占める割合 | 23.0% | 29.1 | 31.6 | 36.1 |

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (2013 年 3 月推計)」

(3) 県民性など

1 世帯あたりの実収入が高水準となっているほか、女性就業率が高いなど勤勉な県民性が窺われます。

NHK受信料の世帯支払率が90.1%と全国第7位(2014年度末)、国民年金保険料の納付率が74.4%と全国第3位(2014年度分)と高くなっており、当県民の実直な面を示すと考えられます。

教育県としても知られ、高校進学率は99.1%(全国第4位。2014年)、大学・短期大学等進学率も51.7%(全国第20位。2014年)と高い比率となっています。老人クラブ加入率が43.4%と全国第1位(2013年度)となるなど、生涯学習への意欲が強いのも当県の特徴です。また、高校生の県内就職率が92.1%と高い(全国第6位。2014年)など、地元志向が強い県でもあります。

▽ 就業率等

() 内は全国順位

| | 富山県 | | 北陸 | 全国 |
|--|---------|-------|---------|---------|
| 就業率 (2010年) | 58.7% | (10位) | 59.3% | 57.3% |
| 女性就業率 (2010年) | 49.9% | (7位) | 50.7% | 47.1% |
| 1世帯あたりの実収入 (勤労者世帯1か月間) (2013年度) | 600.0千円 | (3位) | 585.0千円 | 523.6千円 |
| 1世帯あたりの消費支出 (勤労者世帯1か月間) (2013年度) | 348.4千円 | (5位) | 340.8千円 | 319.2千円 |

(注) 北陸の値は3県の単純平均。

(出所) 富山県「100の指標 統計からみた富山<平成26年度版>」

高い実収入や大家族世帯の多さ(1世帯あたり人員は2.79人と全国第4位。2010年度)のためか、持ち家比率(78.3%。全国第1位。2010年)、1住宅あたり住宅専用住宅延面積(150.1㎡。全国第1位。2013年)とも高い水準となっています。人口対比でみた生活保護を受ける実人員数が全国で最低となっている(千人あたり3.31人。2013年度)のも、こうした経済・社会的背景によるものかと思われます。

やや古いデータになりますが、温水洗浄便座を保有する世帯率が全国第1位(81.9%、2009年)、ルームエアコンを3台以上保有する世帯率が全国第9位(58.5%、2009年)、高齢者等のための設備(バリアフリーなど)がある住宅比率が全国第7位(54.1%、2008年)、と高い比率になっているのも、同様の背景によるものと思われます。

▽ 持ち家比率など

| 持ち家比率 (%) (2010年) | | | 1住宅あたり住宅専用住宅延 面積 (㎡) (2013年) | | | 1世帯あたり自動車保有台数 (台) (2013年度) | | |
|----------------------|-----|------|---------------------------------|-----|-------|-------------------------------|-----|------|
| 1位 | 富山県 | 78.3 | 1位 | 富山県 | 150.1 | 2位 | 富山県 | 1.71 |
| 全国 | | 61.9 | 全国 | | 93.0 | 全国 | | 1.07 |

(出所) 富山県「100の指標 統計からみた富山<平成26年度版>」

これらのことから、2011年11月に法政大学「幸福度指数研究会」が公表した「47都道府県幸福度ランキング」では、当県は全国第2位の「幸せな県民」となっています。

(4) 交通

県民1人あたりの行政投資額をみると、当県は全国第8位(287.1千円。2012年度)であり、道路合計舗装率は91.1%(2014年。全国第11位)となっています。富山市中心部からアクセスの良い国際空港があるのも当県の強みです。

富山県と県外との主な交通手段は、鉄道(JR、あいの風とやま鉄道)、高速道路(北陸自動車道、東海北陸自動車道(2008年7月全線開通)、能越自動車道(2015年2月に全線開通))、空路(富山きときと空港)が挙げられます。主要都市までの所要時間などは下表のとおりです。

| | | | | |
|-----|-------------------|-----------|--------------|---|
| 鉄 道 | 富 山 — 東 京 | | 所要時間 2時間 8分 | |
| | 富 山 — 金 沢 — 大 阪 | | 所要時間 3時間 4分 | |
| | 富 山 — 米 原 — 名 古 屋 | | 所要時間 2時間 54分 | |
| 空 路 | 富山きときと 空港 | 東 京 便 | 6往復 | 日 |
| | | 札 幌 便 | 1往復 | 日 |
| | | 北 京、大 連 便 | 2往復 | 週 |
| | | ソ ウ ル 便 | 3往復 | 週 |
| | | 上 海 便 | 2往復 | 週 |
| | | 台 北 便 | 2往復 | 週 |

(注) 平成2015年11月15日時点。鉄道の所要時間は乗換を含む最短のもの。なお、空路・台北便は、平成2016年1月8日～3月26日には週4往復。また、空路・東京便については、2016年3月27日より、4往復/日に減便となる予定。

2015年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、富山～東京間は最短2時間8分で結ばれました（これまでは3時間11分）。このほか、2015年2月には能越自動車道が全線開通し、港湾では、2011年11月に伏木富山港が日本海側の「総合的拠点港」に選定され、港湾整備や輸送ルートの拡充に向けた検討が進められています。空路では、2012年4月に富山・台北便が新たに開設され、「雪の大谷ウォーク」のシーズン等には増便されることもあります。これらの交通網の整備が県内経済の発展に寄与することが期待されています。

北陸新幹線整備に併せて、「黒部宇奈月温泉」、「富山」、「新高岡」の3駅および駅周辺が整備されています（一部は対応中）。また、北陸本線の富山県内の区間の運営は、JRから第3セクター「あいの風とやま鉄道」に移管されました。

この間、富山市は、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を推進しており、2006年4月にJR富山港線の路面電車化により富山ライトレールが開業したほか、2009年12月には全国初となる「公設民営」・「上下分離方式」により市内軌道線の環状線化が行われました。同市では、現在、富山ライトレールと富山地鉄軌道線の富山駅での接続計画を進めています。

交通機関のバリエーションが豊富なのも当県の特徴です。富山きときと空港の飛行機、船（庄川峡の「渡し」、富岩運河のソーラー付き遊覧船、ほたるいか観光船など）、北陸新幹線をはじめとするJRの電車、氷見線・城端線のディーゼル車、富山ライトレール・万葉線・富山地鉄軌道線のLRT（新型路面電車）、黒部峡谷鉄道のトロッキ電車、立山黒部アルペンルートのような交通機関（ケーブルカー、高原バス、トロリーバス、ロープウェイ）、ハイブリッドバス、宇奈月温泉の電気自動車など、乗り物自体が観光資源になりそうなほど充実しています。

2. 県内経済の特徴

(1) 概要

安価な電力や豊富な水資源、勤勉な県民性、高い教育レベルなどを背景に、当県では、化学、金属製品、一般機械、電気機械といった「モノづくり」に関わる業種を中心に産業が発展してきました。

化学の中では、医薬品の占める割合が高く、印刷、容器、包装資材、卸売といった関連産業の集積も進みました。また、こうした医薬品関連産業の成長は当地金融業発展の契機にもなりました。

産業史的にやや詳しくみれば、終戦後、まず、化学、鉄鋼（電炉）、紙パルプなどの産業が発達しました。その後、1964年に富山・高岡地区が新産業都市に指定されてからは、富山新港が開港し臨海工業地帯が整備されたこともあって、金属製品（アルミ建材）などが急速にウェイトを高め、日本海側屈指の工業集積地に成長しました。1975年頃からは、電気機械、一般機械、輸送機械など組立加工産業への移行が進みました。1984年に富山地域がテクノポリス地域の指定を受けて以降は、ハイテク関連の企業の進出が目立ちました。最近では、北陸新幹線開業により当県の利便性が向上したことを受けて、当地に拠点を設ける動きがみられています。

当県の最近の景気動向の動きをみますと、リーマンショック（2008年9月）を受けた停滞から持ち直した後、東日本大震災（2011年3月）やユーロ危機に端を発した海外経済の減速により一時停滞しました。2013年以降は、2014年4月の消費税率引き上げに伴う振れはありましたが、各種経済政策の効果もあって回復しています。

2014年3月の北陸新幹線開業も当県経済に好影響をもたらしています。2015年上半期（4～9月）の北陸新幹線乗車人数（上越妙高～糸魚川）は、483万人と前年同期の在来線特急の乗車人数の3.08倍に達しました。また、2015年4～9月の県内延べ宿泊者数は230万人と前年を22.8%上回るなど、北陸新幹線開業を機に当県への入込

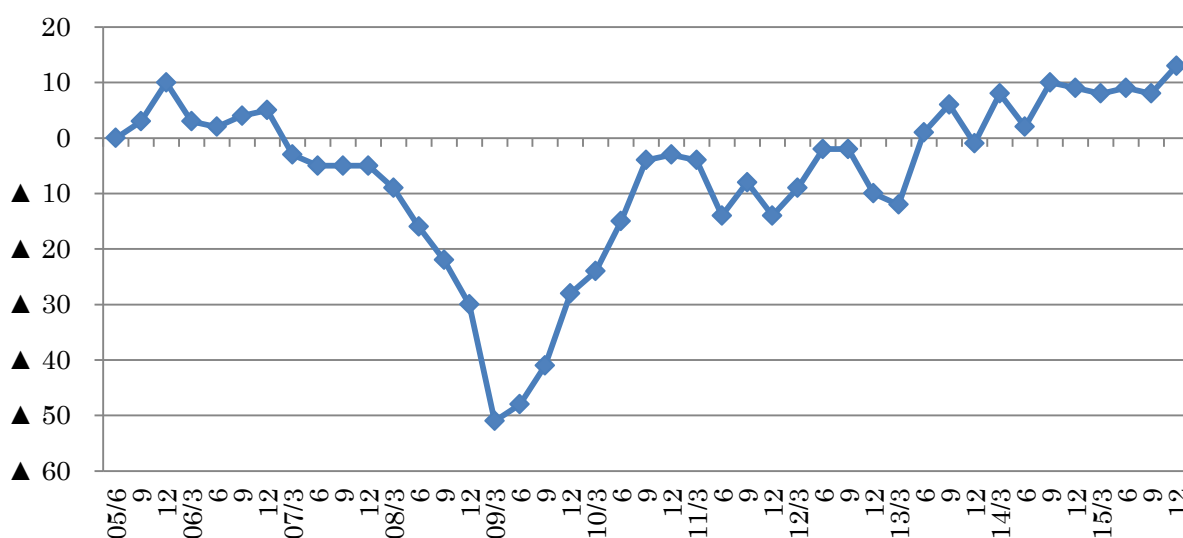
数（観光客＋ビジネス客）は大幅に増加しています。

—— 因みに、日本政策投資銀行は、北陸新幹線開業が当県にもたらす経済効果を年間約 88 億円と試算しています。

この間、雇用面では、有効求人倍率が全国平均を上回る状況が続いています（2015 年 11 月の当県の有効求人倍率は 1.53 倍＜全国 1.25 倍＞）。

2015 年秋現在、「富山県の景気は回復を続けている」と判断しています。今後当面は、新幹線効果もあって景気は回復を続けると思われれます。当事務所では、県内の金融経済情勢を分析のうえ、「富山県金融経済クォーターリー」（当事務所 HP に掲載）として四半期毎に取り纏めておりますので、最新の情報はそちらをご覧ください。

▽富山県の全産業 D.I.の推移



（出所）日本銀行金沢支店「北陸短観」

（2）県内総生産

当県の県内総生産は約 4.4 兆円（2012 年度）で、我が国全体の 0.9% を占めています。産業別構成比をみますと、第 1 次産業が 1.2%（全国 1.2%）、第 2 次産業が 31.6%（同 24.5%）、第 3 次産業が 67.2%（同 74.3%）と、第 2 次産業のウェイトが全国に比べて高いことが特徴です（北陸 3 県でも最もウェイトが高くなっています）。

▽産業別付加価値の合計に対する構成比（2012年度＜全国2013年＞）（単位：％）

| | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 |
|-----|-------|-------|-------|
| 富山県 | 1.2 | 31.6 | 67.2 |
| 北 陸 | 1.1 | 28.1 | 70.8 |
| 全 国 | 1.2 | 24.5 | 74.3 |

（出所）内閣府「県民経済計算」、「国民経済計算」

（3）製造業の業種構成

製造品出荷額などの主要業種別ウェイト（2013年）をみると、化学工業、一般機械、電気機械、金属製品、輸送機械の5業種で過半を占めており、なかでも化学工業（医薬品など：16.4%＜全国9.4%＞）、金属製品（アルミ建材など：10.9%＜同4.5%＞）のウェイトが全国に比べ高いのが特徴です。

▽ 製造品出荷額等の主要業種別ウェイト（2013年）（単位：億円、％）

| | 富山県 | | 石川県 | | 福井県 | | 全 国 | |
|--------------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-----------|-------|
| | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | |
| 化学工業 | 5,466 | 16.4 | 1,264 | 5.2 | 2,895 | 15.8 | 274,092 | 9.4 |
| 一般機械 | 4,624 | 13.9 | 7,363 | 30.4 | 1,112 | 6.1 | 320,911 | 11.0 |
| 電気機械 | 3,500 | 10.5 | 5,491 | 22.6 | 4,044 | 22.1 | 368,283 | 12.6 |
| 金属製品 | 3,618 | 10.9 | 1,184 | 4.9 | 745 | 4.1 | 130,606 | 4.5 |
| 輸送機械 | 1,349 | 4.0 | 1,143 | 4.7 | 1,089 | 6.0 | 582,032 | 19.9 |
| その他とも 合 計 | 33,314 | 100.0 | 24,243 | 100.0 | 18,301 | 100.0 | 2,920,921 | 100.0 |

▽ 富山県の製造品出荷額等の推移（1990～2013年）（単位：億円、％、％ポイント）

| | 1990年 | | 2000年 | | 2013年 | | 90年と13年 との対比 | |
|--------------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-----------------|-------|
| | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | ウェイト | |
| 化学工業 | 4,696 | 12.5 | 4,702 | 13.6 | 5,466 | 16.4 | +770 | +3.9 |
| 一般機械 | 4,166 | 11.1 | 3,446 | 10.0 | 4,624 | 13.9 | +458 | +2.8 |
| 電気機械 | 3,719 | 9.9 | 4,803 | 13.9 | 3,500 | 10.5 | ▲219 | +0.6 |
| 金属製品 | 8,303 | 22.1 | 6,103 | 17.6 | 3,618 | 10.9 | ▲4,685 | ▲11.2 |
| 輸送機械 | 1,131 | 3.0 | 1,228 | 3.6 | 1,349 | 4.0 | +218 | +1.0 |
| その他とも 合 計 | 37,487 | 100.0 | 34,588 | 100.0 | 33,314 | 100.0 | ▲4,173 | — |

（注）「電気機械」は、「電気機械」、「情報通信機械」、「電子部品・デバイス」の合計値。「一般機械」は、「はん用機械」、「生産用機械」、「業務用機械」の合計値。

（出所）経済産業省「工業統計」（従業者4人以上の事業所ベース）

全国に比べてウェイトの高い化学工業と金属製品についてやや詳しくみると以下のとおりです。

(化学工業<医薬品>)

「越中富山の薬売り」が有名ですが、その起源は元禄期（1688～1704年）。富山藩の2代目藩主前田^{まさとし}正甫公（1649～1706年）が農業とならぶ主要産業とすべく売薬とともに製薬を振興したのがきっかけでした。その後、富山藩経済の重要な柱として保護されたことから、次第に藩の中心産業となりました。現在は、全国有数の薬産地として、医薬品の地場中堅企業や大手メーカーの工場が数多く存在し、製造業全体に占めるウェイトも全国比高くなっています。

(金属製品<アルミ建材>)

当県では、①高岡銅器の伝統による技術的な素地、②豊富な水資源、③安価な電力などを背景に、アルミ建材産業が発展しました。大手アルミ建材メーカーのほか、関連下請企業も多数集積しており、生産額全国一（2012年のアルミニウム製サッシの出荷額全国シェア44.2%）を誇っています。

(4) 非製造業の業種構成

不動産、電気・ガス・水道のウェイトが全国平均より高い一方、サービス、卸・小売等が低くなっていますが、総じて見れば全国平均並みとなっています。

▽ 非製造業の業種構成(2012年度<全国2013年>) (単位：億円、%)

| | 富山県 | | 北陸 | | 全国 (10億円) | |
|-----------|--------|-------|--------|-------|--------------|-------|
| | | ウェイト | | ウェイト | | ウェイト |
| サービス業 | 6,743 | 24.9 | 21,004 | 27.7 | 94,872 | 28.9 |
| 不動産業 | 6,460 | 23.9 | 17,013 | 22.4 | 56,181 | 17.1 |
| 卸売・小売業 | 4,891 | 18.1 | 13,538 | 17.8 | 69,099 | 21.1 |
| 金融・保険業 | 1,646 | 6.1 | 4,501 | 5.9 | 21,514 | 6.6 |
| 運輸業 | 1,674 | 6.2 | 4,832 | 6.4 | 23,255 | 7.1 |
| 情報通信業 | 1,280 | 4.7 | 4,191 | 5.5 | 26,645 | 8.1 |
| 建設業 | 2,826 | 10.4 | 7,237 | 9.5 | 27,914 | 8.5 |
| 電気・ガス・水道業 | 1,541 | 5.7 | 3,606 | 4.7 | 8,382 | 2.6 |
| 非製造業合計 | 27,060 | 100.0 | 75,922 | 100.0 | 327,862 | 100.0 |

(出所) 内閣府「県民経済計算」、「国民経済計算」

(観光資源)

雄大な立山連峰、立山カルデラの奇観、紅葉の美しい黒部峡谷など、観光資源となる景観に恵まれています。特に、富山湾に浮かぶようにそびえる立山連峰の景観は我が国有数の観光資源となっており、富山湾はユネスコが後援する NGO「世界で最も美しい湾クラブ」から新規加盟が認められました。これは宮城県の松島湾に次ぐ国内では 2 番目となるものです。環境省が選定した全国の「名水百選」、「平成の名水百選」にそれぞれ県内 4 か所が選ばれるなど、当県には全国に誇る自然環境が数多く存在しています。

また、当県には、世界遺産「五箇山の合掌造り集落」、国宝「瑞龍寺」、「立山黒部アルペンルート」、「宇奈月温泉」などの観光名所に加え、「越中八尾おわら風の盆」、「とらみチューリップフェア」、江戸時代の養蚕業隆盛期を発祥とする「曳山祭」（県内各地で開催）といった祭りやイベントが多いのも特徴です。文化庁は、当県の 3 つの祭り（高岡御車山祭、魚津のタテモン行事、城端神明宮祭の曳山行事）を含む全国 32 の祭りをユネスコの無形文化遺産とすべく提案することを決めました。「山・鉾・屋台行事」として 2016 年の無形文化遺産登録を目指しています。

この間、県内最大の観光地である立山黒部アルペンルートへの来客は、2015 年は北陸新幹線開業や秋の大型連休の効果から、99.7 万人と前年比+10%となり、海外からの来客は、香港や韓国などからの来客増により 21.5 万人と前年（19.2 万人）を 12% 上回りました。

県の総面積に占める自然公園の比率が全国第 5 位（2014 年度末）となるなど、自然環境に恵まれた当県の観光業が、北陸新幹線開業を契機にして一段と活況になるよう期待しています。

(5) 消費面の特徴など

家計調査の結果（2014 年）をみますと、勤労者世帯（二人以上）の平均消費性向（消

費支出÷可処分所得)は70.8と、全国第41位の低いレベルになっています。また、全国消費実態調査報告の結果(2014年)をみますと、二人以上の世帯の1世帯あたりの貯蓄現在高は17,170千円と全国第10位の高さになっています。

平均消費性向が低い当県ですが、持ち家比率や自動車保有台数が高いことを考えますと、メリハリを利かせて消費する傾向が強いように思われます。

「家計調査」で物品毎の世帯あたり支出額をみますと(2012年～2014年の平均)、「鰯」、「烏賊」、「昆布」、「生しいたけ」などが全国第1位となる一方、「紅茶」、「食用油」、「卵」などが全国平均よりかなり低くなっています。

以 上

[参考] 富山県の観光資源など

▽ 富山県の主要観光資源

| | |
|------------------------------|--|
| 世界遺産 五箇山（菅沼・相倉） 合掌造り集落 | 岐阜県の白川郷とともに 1995 年に世界遺産に登録されており、大きな三角形の妻面を見せてそびえ立つ合掌家屋と集落の歴史的景観、そして周囲の自然環境などが良好に保存されていることが、日本を代表する歴史的遺産として高く評価されています。 |
| 国宝 瑞龍寺 | 曹洞宗高岡山瑞龍寺は加賀藩二代藩主前田利長公の菩提を弔うため、三代藩主利常公によって約二十年の歳月をかけて建立されました。富山県初の国宝として山門、仏殿、法堂が指定されており、江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されています。 |
| 立山黒部アルペンルート | 富山県側・立山（ケーブル駅）～長野県側・扇沢（トロリーバス駅）まで全長 37.4km の道のりをケーブルカー、バス、ロープウェイなど 6 つの乗り物を乗り継いで横断する全国屈指の北アルプス観光コース（営業期間は 4～11 月の 8 か月）。 |
| 宇奈月温泉 | 大正期に黒部峡谷鉄道（トロッコ電車・宇奈月駅～黒部峡谷の檜平駅までの 20.1km）沿道の黒糠温泉から 91℃の温泉を引き湯して開湯したのが始まりといわれています。 |

▽ 富山県のシンボル

| | |
|-------|--|
| 県 の 鳥 | 「ライチョウ」 日本アルプスの代表的な高山帯の鳥。霊峰立山に多く生息し「立山神の使い」として愛されています。 |
| 県 の 木 | 「タテヤマスギ」 立山を中心とする山岳地帯に自生。寒さや雪に強いという特徴をもっています。 |
| 県 の 花 | 「チューリップ」 4月下旬になると、砺波地方をはじめ各地でこの花のじゅうたんが見られます。 |
| 県 の 魚 | 「ブリ」「ツ바이ソ（コズクラ）」「フクラギ」「ガンド」「ブリ」と呼び名を変える出世魚です。 「シロエビ」 「あいがめ」と呼ばれる富山湾特有の海底谷に生息し、富山湾が世界唯一の漁場となっています。 「ホタルイカ」 3月～6月にかけて産卵のため富山湾沿岸を群遊します。 |

（出所）富山県

▽ 「名水百選」に選ばれている 4 か所

- ①黒部川扇状地湧水群（黒部市・入善町） ②穴の谷の霊水（上市町） ③立山玉殿の湧水（立山町） ④瓜裂清水（砺波市）

▽ 「平成の名水百選」に選ばれている 4 か所

- ①いたち川の水辺と清水（富山市） ②弓の清水（高岡市） ③行田の沢清水（滑川市） ④不動滝の霊水（南砺市）